

令和7年度 学校評価

(評価) A=よくできた B=ややできた C=あまりできなかった D=全くできなかった

	評価項目	評価の観点	令和7年度						今年度の成果	次年度への課題と取組み	学校関係者評価委員の意見等
			A	B	C	D	平均	評価			
1 授業改善・学力向上	基礎・基本の定着	初期指導の充実、週末課題や補習の推進により、基礎・基本の定着を図っている。	9	24	7	0	3.1	B	国語・英語の小テストを全学年実施できた。3年生においては平常補習を実施できた。	初期指導の充実を全教科で取り組む。週末課題を課していく。	ICTを適切に活用した授業が展開されており、生徒の理解を深める効果が見られる。
	ICT活用授業	授業においてICTを効果的に活用している。	15	24	1	0	3.4	A	多くの講座でICTを活用した授業が展開されている。	授業における効果的なICT活用について、情報共有を図る。	
	主体的・対話的な学び	生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業を展開している。	8	29	3	0	3.1	B	協同学習について研修を積み、実践することができた。教科指導と探究活動の往還について検討することができた。	さらに共通理解を図り、学力伸長につなげる。	
	授業研究参加	オープンルームや公開授業研究などを通じて、授業改善に取り組んでいる。	19	20	1	0	3.5	A	オープンルームや研究授業・研究協議などを通じて、授業を見合い学び合う機会が拡充し、学校全体で授業改善に取り組む意識が高まった。	授業に関する意見交換の場を充実させ、その成果を日常の授業実践につなげていくことが課題である。	
	カリキュラム・マネジメント	シラバスを作成し、観点別学習評価の改善に努め、指導と評価の一体化を進めている。	5	26	7	2	2.9	B	シラバス作成のスケジュールを策定した。新高校の選択科目群の内容を各教科で検討し、適切な配置を行った。	シラバス作成を実行に移していく。指導と評価の一体化について共通理解を図る。	
2 探究的な学び	キャリア教育	生徒の進路指導・キャリア教育を組織的・体系的に実施している。	8	27	5	0	3.1	B	進路希望調査や各回模試の結果、面談等を活用した体系的な進路指導の充実を図った。また、教員研修等を活用し、進路指導力向上に務めた。	学習習慣の確立が課題。平日に2時間以上学習（授業以外、塾等含む）する生徒の割合を8割以上にするため具体的な取組を検討する必要がある。	家庭における学習時間を増やす工夫が必要。
	探究カリキュラム（普通科）	生徒の興味・関心や進路に合わせた探究学習が行われている。	12	22	6	0	3.2	B	1年ではプロジェクトベースの探究をグループで行った。2年では根源的な探究課題を模索し、あらゆる取組を行った。3年では高校生ならではの職業観を見つめた。	新2年が2単位となる。また文理探究科2年のプログラムを開発することになる。1年、3年は発展させながら継承していく。	探究活動について、他校にない取組ができています。引き続き活動を発展させてほしい。
	探究カリキュラム（文理探究科）	Global/Local/DXの視点を取り入れた本校独自の探究学習が行われている。	12	24	4	0	3.2	B	Global/Local/DXの3つのフィールドにおいてディベート・ハルヒイベント・プロジェクトマッピングを探究のテーマとした本校独自の探究を実施できた。	学校内外への活動のアピールと連携、3年間を見据えた組織的な文理探究科の教育体制の構築（効果的なカリキュラム編成）が必要である。	今年度は、ハルヒイベントやプロジェクトマッピング等地域に開かれた行事ができていた。次年度にも期待する。普通科との合同での学びの場が今後設定できるとさらによい。
	探究活動支援	中間発表会やワクワク楽園祭など、生徒が成果を発表し、意見交換する機会を十分に設けている。	12	28	0	0	3.3	A	テーマ発表、中間発表、学校外部での連携、キター！WakuWaku楽園祭など、生徒の発表機会を作ってきた。	外部での発表機会を周知し、生徒が外に出て発表をするような機会を持ちたい。次年度年間計画に中間発表やWakuWaku楽園祭を設定した。	
3 地域・連携	地域行事参加	夏祭りやコンサートなど地域行事に積極的に参加し、地域貢献の意識を高めるように取り組んでいる。	20	19	1	0	3.5	A	ダンス部、吹奏楽部が地域行事に参加し発表した。夏祭りイベントや、餅つき大会、あいさつ運動に生徒会が参加し、地域の住民と交流を持った。	各行事の開催時期が調査期間と重なるなど参加が難しいときがあるが、適宜調整しつつ積極的に取り組んでいきたい。	いつも地域行事に参加していただいている。小・中・高で連携して挨拶運動等を継続できればよい。児童・生徒との交流に加え教員間連携ができるとよい。朝の小・中・高の挨拶運動を中学生は楽しみにしており、継続していきたい。小学校での生徒による出前授業は、児童たちに大変好評であった。次年度もぜひお願いしたい。
	広報活動	学校説明会やHPなどを通じて、学校の特色や教育活動を広く発信している。	20	19	1	0	3.5	A	パンフレット、ホームページを刷新し、学校の魅力を伝えた。Instagramやにきたブログを通じて学校の様子を定期的に発信した。	オープンハイスクール・学校説明会の参加人数を増やし、来校したからこそ本校の魅力がより感じられる説明会へと刷新する必要がある。	Instagramの発信が効果的で良い。志願者を増やすための魅力を様々な形で発信してほしい。
	大学等との協働	大学等との連携・協働体制を構築し、探究的な学びを支える仕組みを整備している。	15	23	2	0	3.3	A	神戸女学院大学、関西学院大学、大手前大学と連携体制を構築した。生徒向けの特別講義、職員研修、探究推進に関する取り組みを企画し、実施した。	教科と探究をつなぐ取り組みを検討したい。探究が生徒の学力向上や進路意欲の向上に結びつく事例を蓄積したい。	
4 安心・安全な学校づくり	安心・安全な環境	授業・行事・部活動において、生徒が安心して活動できる環境を整備している。	12	21	7	0	3.1	B	勤労体験学習は「校内清掃活動」と名称を改め、生徒の負担を考慮し暑さを避けた秋に実施。・定期的な大掃除の実施。	日常的な清掃指導を徹底し、常に清潔な学習環境を維持していく。	通学時、グリーンベルトを歩かない生徒がいて危険である。
	いじめ防止	いじめ防止に向けた組織的な取組を効果的に行っている。	13	19	7	1	3.1	B	日常の生徒観察をはじめ、定期的な生徒面談、キャンパスカウンセラーによるカウンセリングを実施した。いじめアンケートを学期ごとに行い、未然防止につとめた。	SNS上でのいじめ防止のため、スマートフォン、iPadの使い方について再度徹底するとともに、情報モラル教育の必要性がある。	
	校内ルールの改善	校則検討委員会を通じて、生徒・保護者・教職員が協働し、校内ルールの改善を進めている。	5	23	12	0	2.8	C	全校生徒に校則について意見を募った後、校則検討委員会を実施した。生徒会役員、PTA役員とともに校内ルール改善を行った。	継続して、校則検討委員会を定期的実施していく。	制服の着こなしが気になる。
	信頼関係	教職員と生徒の信頼関係を基盤に、教育活動を展開している。	12	24	4	0	3.2	B	担任による定期的なクラス面談を実施した。始業式、終業式で全校生徒対象に各部長による訓話を行い、学年の絆を超えた風土づくりを行った。	本年度と同様の取組を行うとともに、部活動においても適宜、面談やミーティングを行い、関係づくりにつとめる。	
	部活動運営	「いきいき運動部活動」の基準を遵守し、適正な運営を行っている。	8	28	4	0	3.1	B	各部活動の活動日数の把握をしながら、「いきいき運動部活動」の指針に従い活動した。短時間の練習でも集中して取り組み、成果を出すことができた。	潤滑に運営をするため、生徒面談やミーティングを行い、学年を超えた信頼関係の構築につとめる。	
5 働き方改革・DX推進	働き方改革	教職員の働き方改革を推進し、無理のない勤務環境を整備している。	8	19	13	0	2.9	B	デジタル採点システムが年度途中に変更されたが、大きな問題もなく移行が進んだ。授業教材についても協働的な取組を行っている。	発展的統合に伴う新規業務などが負担増になっており、さらに業務の精選や役割分担など組織的な支援体制づくりが必要である。教員の超過勤務は5月、続いて6月が多い。	中学校でも1学期の超過勤務の教員が多い。
	DX推進	ペーパーレス化や採点システムの活用など、DXによる業務改善を進めている。	20	18	2	0	3.5	A	デジタル採点システム「百問繚乱」の導入をスムーズに行い、全職員で活用を進めることができた。	効果的な生成AIの活用について情報共有を図る。デジタル採点答案の誤返却を防止する。	
6 教育活動の広がり	人権教育	人権教育を計画的に推進し、生徒・教職員の人権意識を高める取組を行っている。	9	24	7	0	3.1	B	LHRの時間にヤングケアラー、性的マイノリティに関するビデオ視聴を行った。全校生徒対象に身体障害者についての人権講演会を行い、教職員も含めた学校全体の人権意識高揚に努めた。	犯罪被害者問題、北朝鮮拉致問題等、多岐にわたる人権課題に「HUMAN RIGHTS」等を活用しながら継続的に取り組む。	
	防災教育	防災教育や安全点検を徹底し、生徒・教職員の防災意識と安全な生活態度を育成している。	13	25	2	0	3.3	A	1学期に防災避難訓練、2学期に地震避難訓練を実施し、生徒、教職員の防災意識を高めることができた。	校内の避難訓練だけでなく、生徒が学校外で災害に直面した場合の対応など、多角的な安全教育と防災意識の育成が課題である。	
	国際理解教育	海外研修やディベートコンテスト等の行事参加、授業での交流を通して、国際理解への意識を高めている。	15	23	2	0	3.3	A	オーストラリア海外研修(12日間)を実施し、HP等で現地の様子を発信し、帰国後は回想録を作製した。3月には全校集会で研修報告を行い、国際理解教育の一助とした。また、阪神スピーチ大会や県ディベート大会に出場した。	研修費用高騰により参加者が14名となった。次年度は期間を10日間とし参加費を抑制するとともに、募集段階から研修目的、意義をよく周知する。また、研修内容や事前学習の充実を図る。	海外研修への補助は一部生徒のみの還元となっている。生徒全体へ還元できるような方法を検討してほしい。⇒海外研修の成果発表を実施している。
	非認知能力育成	授業・部活動・行事等を通して、協働性・忍耐力・自主性などの非認知能力を育成している。	9	21	9	1	3.0	B	授業における対話的学びや、学校行事・部活動での協働的活動を通して、協働性・自主性・忍耐力などの非認知能力を育成する取組が着実に進んだ。	非認知能力を育成する指導の共有・体系化を進め、学校全体としての指導の質を高めていく必要がある。	海外研修を実施することが、学校の価値向上につながる。

※ 評価値 = (4 × Aの人数 + 3 × Bの人数 + 2 × Cの人数 + 1 × D人) / 全体人数 (小数第2位四捨五入で表示) 評価 A ≥ 3.3 B ≥ 2.9 C ≥ 1.6 D < 1.6